

日本人口学会第69回大会

日本人口学会第69回大会は、2017年6月10日（土）～11日（日）に仙台市の東北大学で開催された。大会プログラムは以下の通りである。なお12日（月）には、東日本大震災被災地域の巡検も実施された。

第1日 2017年6月10日（土）

企画セッション① 人口・家族の地域性：歴史的観点からの都市と農村の比較

<組織者・座長> 高橋 美由紀（立正大学）

<討論者> 安元 稔（駒澤大学）平井 晶子（神戸大学）

- 1) 前近代における人口移動—在郷町郡山と周辺農村の比較— ……黒須 里美（麗澤大学）
高橋 美由紀（立正大学）
長岡 篤（麗澤大学）
- 2) 明治中期の関東地方における天然痘死亡率の都市村落間格差 ……川口 洋（帝塚山大学）
- 3) 人口と栄養の近現代史—人口食料問題の都市農村比較— ……湯澤 規子（筑波大学）

テーマセッション① 主観的データを用いた人口学的研究

<組織者・座長> 影山 純二（明海大学）

- 1) 誰が熟年離婚するのか、また、熟年離婚はメンタルヘルスを悪化させるのか
……………佐藤 一磨（拓殖大学）
- 2) 理想、追加予定子ども数に対する主観的な豊かさの影響—Eurobarometerのデータを用いた分析— ……増田 幹人（駒澤大学）
- 3) 結婚カップルにおける主観的厚生格差と離婚選択—日本と韓国の家計パネルデータを用いた親権に関する比較研究— ……萩原 里紗（明海大学）
- 4) Son Preference, Parental Satisfaction, and Sex Ratio Transition
……………Junji Kageyama, Risa Hagiwara (Meikai University)
Kazuma Sato (Takushoku University) Eriko Teramura (Meikai University)
- 5) 女性の家族関係・家計収入と幸福度に関する日台比較
……………寺村 絵里子・萩原 里紗（明海大学）
- 6) 人口統計的要因にみる肥満の決定要因と自己申告バイアス—日本・中国・インド・アメリカを対象とした分析— ……鈴木 俊光（内閣府経済社会総合研究所）

自由論題報告 A

A-1 未婚

<座長> 渡辺 真知子（明海大学）

- 1) 未婚成人子の居住形態—JGSS 合併データ（2000-2010）を用いた
パラサイトシングル仮説の検証— ……吉田 俊文（慶應義塾大学）
- 2) 親と同居の未婚者の最近の状況 ……西 文彦（総務省統計研究研修所）
- 3) 未婚男女の性別役割に関する選好と子どもを持つ意欲との関連
……………加藤 承彦（国立成育医療研究センター）
- 4) 男女のライフコース戦略と未婚化 ……佐藤 龍三郎（中央大学）

A-2 人口転換

<座長> 池周一郎 (帝京大学)

- 1) 人口転換の数理モデル ……………稲葉 寿・齋藤 涼平 (東京大学) [当日キャンセル]
- 2) 人口転換モデルの改良—ポスト人口減少社会への展望— ……………原 俊彦 (札幌市立大学)

自由論題報告 B

B-1 出生

<座長> 津谷 典子 (慶應義塾大学)

- 1) 日本における学歴結合・婚前妊娠が出生力格差に与える影響 ……………打越 文弥 (東京大学)
茂木 良平 (バルセロナ自治大学)
- 2) 開発途上国における農村家計の避妊行動が資源配分に及ぼす影響
—ルワンダ共和国東部州を事例として— ……………島村 由香 (東京大学)
松田 浩敬 (東京大学)
- 3) 低い外国人女性の出生力とその決定要因—国勢調査個票データを用いた
同居児法による分析— ……………是川 夕 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 4) 系列分析による人口移動と結婚・出生行動パターンの類型化
……………鎌田 健司・小池 司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)
山内 昌和 (早稲田大学)
- 5) 子どもをもつ効用と主観的要因 ……………吉田 千鶴 (関東学院大学)

自由論題報告 C

C-1 死亡・疾病①

<座長> 中澤 港 (神戸大学)

- 1) 日本の傷病別平均受療期間の推定：1999～2014年 ……………別府 志海 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 2) 日本における感染症死亡の時系列傾向の分析 ……………西浦 博 (北海道大学)
木下 諒 (北海道大学)
- 3) 江戸中後期の人口増加と飢饉—出雲国神門郡102村……………廣嶋 清志 (島根大学)

C-2 死亡・疾病②

<座長> 別府 志海 (国立社会保障・人口問題研究所)

- 1) 市区町村別生命表作成の課題—小地域における死亡数の攪乱の変動とベイズ推定における
事前分布のパラメータを設定する「地域」区分が平均寿命へ及ぼす影響—
……………菅 桂太 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 2) 日本における長期時系列死因統計の構築に向けて—1993年と94年の間の不連続の修正—
……………大津 唯・是川 夕・石井 太 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 3) 平均余命の地域差を表す社会・経済指標と死亡率推計 ……………井川 孝之 (PwCあらた有限責任監査法人)

公開シンポジウム 東北の人口問題：過去、現在、そして未来？ —災害と共に生きてきた人々—

<組織者> 阿部 隆 (東北大学)

<座長> 原 俊彦 (札幌市立大学)

<討論者> 鬼頭 宏 (静岡県立大学)

- 1) 飢饉のダメージ、飢饉から立ち直る—江戸期北東北の場合— ……………菊池 勇夫 (宮城学院女子大学)
- 2) 三陸沿岸の港の盛衰—災害と漁業の歴史— ……………川島 秀一 (東北大学)

- 3) 東北地方の人口問題の現在—人口問題からみた東日本大震災からの復興の行方—
阿部 隆 (東北大学)
- 4) 平成27年国勢調査と比較した社人研地域人口推計の精度検証—東北地方を中心として—
小池 司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)
 山内 昌和 (早稲田大学)

第2日 2017年6月11日(日)

企画セッション② Low Fertility in East Asia and Women's Employment

<Organizer> Nobuko Nagase (Ochanomizu University)

<Chair> Hiroshi Kojima (Waseda University)

<Discussants> Toru Suzuki (National Institute of Population and Social Security Research)
 Yasuhiro Kamimura (Nagoya University)

- 1) Gender Inequality and Fertility Intentions: A Four-Country Comparison
Mary C. Brinton (Harvard University)
- 2) How Does Unpaid Care Work Affect Urban Chinese Women's Opportunities and Gender
 Equality on the Labor Market?Xiao Yuan Dong (The University of Winnipeg)
 Yaohui Zhao (Peking University)
- 3) Childbirth and Housework in East AsiaMasaaki Mizuochi (Nanzan University)
- 4) Marriage, Childbirth and Labor Participation: Contrasting Patterns in East Asia
Nobuko Nagase (Ochanomizu University)

企画セッション③ 第15回出生動向基本調査からみた日本における結婚・出生

<組織者> 石井 太 (国立社会保障・人口問題研究所)

<座長> 守泉 理恵 (国立社会保障・人口問題研究所)

<討論者> 原 俊彦 (札幌市立大学) 筒井 淳也 (立命館大学)

- 1) 夫婦出生力75年の軌跡：第15回出生動向基本調査の概要
石井 太・別府 志海 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 2) 未婚者の結婚に関する意識の多面性釜野 さおり・中村 真理子 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 3) 出生力の近接要因の動向：性・配偶関係・避妊・妊孕力
別府 志海・守泉 理恵 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 4) 子ども数についての意識の変容守泉 理恵・新谷 由里子 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 5) 女性のライフコースと出生力の関係の再検討是川 夕 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 6) 期間合計結婚出生率の趨勢とその背景：社会経済発展，ジェンダーレジーム，
 科学技術に着目して余田 翔平・岩澤 美帆 (国立社会保障・人口問題研究所)

自由論題報告 D

D-1 ラオス

<座長> 佐藤 都喜子 (名古屋外国語大学)

- 1) ラオス農村の人口動態と家族計画西本 太 (長崎大学)
 白川 千尋 (大阪大学)
- 2) ラオス中部農村におけるバンコク出稼ぎ丹羽 孝仁 (帝京大学)

- 中川 聡史 (埼玉大学)
- 3) ラオス中部天水田農村の人口増加と開田 ……………横山 智 (名古屋大学)
- 4) ラオス天水田農村の人口増加と世帯の水田獲得の変化 ……………高橋 眞一 (新潟産業大学)
- 5) ラオス中部・アランノイにおける食生活・食料獲得活動と出生力 …佐藤 廉也 (大阪大学)
- 蒋宏伟 (総合地球環境学研究所)
- 西本 太 (長崎大学)
- 横山 智 (名古屋大学)

自由論題報告 E

E-1 結婚・離婚

<座長> 安藏 伸治 (明治大学)

- 1) 日本における子の性別と離婚との関係 ……………犬飼 直彦 (早稲田大学)
- 2) 日本における学歴同類婚の趨勢：1980年から2010年国勢調査個票データを用いた分析
……………福田 節也・余田 翔平 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 茂木 良平 (バルセロナ自治大学)
- 3) 初婚の社会経済的要因と家族要因—近世日本と現代日本の比較— …津谷 典子 (慶應義塾大学)
- 黒須 里美 (麗澤大学)
- 4) 離婚の社会経済的要因と家族要因—近世日本と現代日本の比較— …黒須 里美 (麗澤大学)
- 加藤 彰彦 (明治大学)

企画セッション④ 少子化を巡る意識と家族・労働政策の国際比較

Comparative Study on People's Perception of Fertility Decline and Its Relationship
with the Family and Labor Market Policies

<組織者> 大石 亜希子 (千葉大学)

<座長> 前田 正子 (甲南大学)

<討論者> 吉田 千鶴 (関東学院大学)

- 1) 若年雇用と結婚・同棲の国際比較 ……………松田 茂樹 (中京大学)
- 2) 国際比較からみた未婚者の家族形成意識 ……………西村 智 (関西学院大学)
- 3) 子育て支援環境と出産意欲に関する国際比較—ケイパビリティアプローチの視点から—
……………高橋 美恵子 (大阪大学)
- 4) ワーク・ライフ・コンフリクトと子育て意識の国際比較 ……………大石 亜希子 (千葉大学)

企画セッション⑤ 出生の生物人口学

<組織者> 小西 祥子 (東京大学)

<座長> 是川 夕 (国立社会保障・人口問題研究所)

<討論者> 水落 正明 (南山大学) 白井 千晶 (静岡大学)

- 1) 母親の人口学的特性と児の低出生体重 ……………鶴巻 香奈子 (東京医療保健大学)
- 佐方 奏夜子 (東京大学)
- 小西 祥子 (東京大学)
- 2) 出産後の性機能回復と追加出産意欲 ……………早乙女 智子 (京都大学)
- 3) 日本における夫婦間の性交渉の頻度と親密性の文化的脈絡 ……………森木 美恵 (国際基督教大学)
- 4) 就業二極化と性行動：無業と長時間労働の影響 ……………玄田 有史 (東京大学)

- 川上 淳之 (東洋大学)
- 5) 妊娠確率と性交のタイミングに関する予備的解析 小西 祥子 (東京大学)
- 早乙女 智子 (京都大学)
- 清水 慶子 (岡山理科大学)
- 大庭 真梨 (東邦大学)
- 鶴巻 香奈子 (東京医療保健大学)
- 6) 生殖補助医療と出生率 林 玲子 (国立社会保障・人口問題研究所)

自由論題報告 F

F-1 就業

<座長> 西川 由比子 (城西大学)

- 1) インドの有配偶女性の労働力参加—全国家族健康調査 (NFSH) マイクロデータ分析—
..... 新村 恵美 (お茶の水女子大学)
- 2) 出産が女性のキャリアに与える影響 横山 真紀 (お茶の水女子大学)
- 3) 農林業センサスの世帯員パネルデータから見た日本の農家女性の就業動向
..... 西村 教子 (公立鳥取環境大学)
- 仙田 徹志 (京都大学)
- 4) 日本における育児休業の出生率への影響 松倉 力也 (日本大学)
- 小川 直宏 (東京大学・マラヤ大学)

F-2 移動

<座長> 新田目 夏実 (拓殖大学)

- 1) 大正期における山村からの出寄留の実態—愛知県東加茂郡賀茂村『寄留届綴』の分析から—
..... 鈴木 允 (横浜国立大学)
- 2) 外国人集住地区の分布と特性に関する分析 中川 雅貴 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 3) フランスにおける「第3の人口転換」とムスリム移民2世における
宗教的食事制限の関連要因の変化 小島 宏 (早稲田大学)

自由論題報告 G

G-1 地域人口推計

<座長> 鈴木 透 (国立社会保障・人口問題研究所)

- 1) Child-Woman Ratio の分母年齢と将来人口推計の精度との関係
—市区町村スケールの過去の誤差率分布と分析枠組みの構築— …丸山 洋平 (福井県立大学)
- 2) 東日本大震災被災地の将来人口推計における課題—大槌町中心部の人口推計を事例に—
..... 飯坂 正弘 (農業・食品産業技術総合研究機構)
- 3) 種々の仮定を適用した多地域モデルによる都道府県別将来人口推計
..... 小池 司朗・石井 太 (国立社会保障・人口問題研究所)

G-2 人口統計

<座長> 小池 司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)

- 1) 人口推計の概要及び基幹統計化について 久我 真理子 (総務省統計局)
- 2) 2015年10月1日時点の人口データの精度について 山田 茂 (国士舘大学)
- 3) 世帯形成・解体の動向 鈴木 透 (国立社会保障・人口問題研究所)

自由論題報告 H

H-1 東アジア

〈座長〉野村 茂治 (大阪大学)

1) Comparative Study regarding Population Aging in China and Japan

……………楊 非凡・聶 海松 (東京農工大学)

2) 中国の新人口政策と「国家人口発展計画」について ……………尹 豪 (福岡女子大学)

3) 台湾における母親の就業と保育サービス利用 ……………可部 繁三郎 (日本経済新聞社)

H-2 地域人口分析

〈座長〉高橋 眞一 (新潟産業大学)

1) 多変数による組み合わせ分析法の提案 ……………井上 希 (青山学院大学)

2) 近年の地域別人口性比の動向 ……………坂井 博通 (埼玉県立大学)

3) Discovery of Small Area Population through Web Demographics

……………T. Edwin Chow (Texas State University)

(鈴木 透 記)

マックスプランク出張報告

6月12日から23日まで、ドイツ・ロストックにあるマックスプランク人口研究所 (Max Planck Institute for Demographic Research) に滞在する機会を得た。滞在の目的は、科学研究費助成事業「結婚・離婚・再婚の動向と日本社会の変容に関する包括的研究」(代表者：岩澤美帆)の一環として、これまで内外の研究者と共に取り組んできた結婚研究の成果を報告してフィードバックを得ることと、同時期に開催されていた International Advanced Studies in Demography (IDEM) という人口学の研修コースに参加することであった。筆者は同研究所に2008年4月から2011年9月まで勤務しており、今回6年ぶりに古巣を再訪することとなった。

マックスプランク人口研究所は、1996年に開設された国際的な人口研究機関である。開設以来、世界中から研究者が集まり、人口変動、高齢化、出生力、生物人口学、その他の最先端の人口研究を行ってきた。同研究所はヨーロッパでも有数の人口研究機関であり、世界の人口研究を主導する研究所のひとつとして名声を確立している。マックスプランク人口研究所は、最先端の研究を行うのみならず、次世代の人口研究を担う若手研究者の育成にも熱心な取り組みをみせている。IDEMは、同研究所が主催する人口学の研修コースのひとつであり、第一線の研究者を講師に迎えて博士課程の学生や若手研究者に人口研究における最先端の知識やスキルを伝えている。

今回の滞在では、IDEMの一環として、「人口データの平滑化：人口研究における柔軟なモデル (Smoothing Demographic Data: Flexible Models in Population Studies)」および「データの視覚化 (Visualizing Data)」の2つのコースを受講した。いずれのコースも、月曜日から金曜日までの5日間の連続講義で、午前中は座学による講義、午後はRを用いた実習の形式で行われた。各コースとも受講生はPhDの学生やポスドクが中心であったが、筆者のような中堅やシニアの研究者も数名参加しており、様々な年齢、キャリア、出身国の受講者同士、交流を深めることができた。今回久しぶりにコースワークを行なった感想として、人口学におけるRの普及が挙げられる。両コース共に利用する統計パッケージがRであったことから明らかなように、近年ヨーロッパの人口学研究においてはRが主流となりつつあるようである。Rの特徴としては、プログラムの柔軟性、コマンドやオプションの豊富さ、そして精細かつ柔軟なグラフィックの作成が挙げられる。今回の研修を経て、